

## 追悼

### 日立化成の大先輩・鶴田さんへの追悼

合成樹脂工業協会 副会長 長瀬 寧次  
(日立化成工業株式会社 取締役会長)

初めて鶴田さんの訶咳に接したのは、私が日立化成へ入社した年の1967年だったと思います。当時鶴田さんは日立化成の取締役で研究開発部長をされていましたが、入社早々の私共のような若輩も参加させて化学文献の輪読会を指導されていました。大学を出て会社へ入りたての私にとって、大学時代と同じような、いやそれ以上にレベルの高い化学学会誌の雑誌会は驚きでした。日立から分離独立して間のない日立化成という会社が鶴田さんという指導者によって研究開発型企業へ成長する過程をはじめから学ばせていただいたような気がします。それから後の私の長い日立化成人としての考え方の基礎が、この入社初年度ころの鶴田さんのご指導によって形成されていることに、鶴田さんが亡くなった今、改めて気づかされています。

明治生まれの鶴田さんはまもなく日立化成を離れ、経営が破綻した徳島製油の更生管財人として非常なご苦勞をされながら、事業経営者としての手腕を遺憾なく発揮されました。

しかし、経営者としてお忙しかったこの間も鶴田さんは化学者としての活動は続けられ、合成樹脂工業協会の育成やネットワークポリマー誌の編集に貢献され、毎年日立化成の全社研究発表会ではいつも最前列にお座りになり、厳しく私共をご指導していただいたことを昨日のように思い出します。

私が五井工場長であった1992年には、鶴田さんとともに日立化成創業時の役員である日月さんをご一緒に五井工場へお招きして、お二人から日立化成創業の想いと研究開発への強い情熱を話していただきました。当時お二人はすでに経営者としての現役を離れてかなりの時間が経っていましたが、化学の研究者としてはバリバリの現役であったと感銘いたしました。

そして最後に鶴田さんにお目にかかったのは一昨年の秋の終わり頃でした。ご機嫌伺いにお邪魔した内ヶ崎さん(当時日立化成相談役)と私に対し、化学の研究に対する尽きない興味と、情熱を熱くお話になり、99歳の鶴田さんの頭脳の冴えに尊敬の思いを新たにしました。

経営者であり、合成樹脂工業協会を創り育てるような活動家であった鶴田さんは、若いころには仲間の方々と楽器を奏でられるような芸術家であり、お酒が入ると俄然愉快になり街へ繰り出すような人間味豊かな一面もありましたが、100歳でお亡くなりになるまで真の化学研究者であった鶴田さんに、改めて尊敬の念を持ってご冥福を祈りたいと思います。